

日 時 令和6年12月23日(月)
3校時 10時45分～11時30分
対 象 みどりB学級2組 第3学年 5名
指 導 者 宮寺 翔

1 主題名 分け隔てをせずに 【C 公正、公平、社会正義】

2 教材名 「なおとからのしつもん」(光村図書 どうとく③きみがいちばんひかるとき P.107～109)

3 主題設定の理由

本主題は、小学校学習指導要領(平成29年3月告示)

特別の教科 道徳 第2 内容

B 主として人との関わりに関すること 【(12) 公正、公平、社会正義】〔第3学年及び第4学年〕
誰に対しても分け隔てをせず、公正、公平な態度で接すること。

を受けて設定した。

① ねらいとする道徳的価値について(価値観)

社会正義を実現させるうえで、公正、公平に振る舞うことは大切である。しかし、人は、自分と異なる考え方や感じ方、多数ではない立場や意見などに対し、偏った見方をしてしまいがちである。また、自分よりも弱い存在に対し、優越感を抱きたいが故に、偏った接し方をしてしまうこともある。これは、差別やいじめにもつながる。

人は所属する集団の中でよりよく生活し、それぞれのよさや能力を伸ばし合う必要がある。それを実現するためにも、誰にでも公平に接しようとする姿勢を育むことは重要である。相手によって態度を変えることなく、誰に対しても公平に接するためには、どんな心が必要か考えさせたい。

② 児童の実態(児童観)

本学級の児童は、情緒固定学級第3学年の児童である。各個人の差異はあるが、中学年として、「分け隔てなく公平に接する」ことの大切さを理解できていない児童もいる。その背景には、障害特性や発達段階の遅れが関係していることがある。特に、「他人(友達や両親、教職員など)の気持ちや状態を汲み取ることができない。(困難)」という特性が大きな壁となっている。自分では相手の気持ちや状態を汲み取れずに言葉を発してしまうことが多々あるが、他人から言われると傷付いたり怒ったりする。これまでそのようなトラブルを幾度となく繰り返してきた。

具体的な場面を想起させ、第三者視点で客観視したり、自分に置き換えて考えたりする活動を通して、実際の生活内でも自分の気持ちに折り合いを付けて応答できるような態度や素地を身に付けさせたい。それが、社会的に公正、公平に人に接することにつながっていくことに期待している。

また、「公正、公平」という言葉を初めて知る児童も多くいる。今回の学習を人との関わり方の一つの例として扱い、この行動が「公正、公平」な行動であることを理解させたい。

③ 教材について(教材観)

(ア) 教材の概要

なおとの態度が気になっている「ぼく」が、なおとに対して、「人によって態度を変えるのはいけない。」と注意をした。すると、反対になおとから、「なぜ人によって態度を変えてはいけないのか。」と聞き返されてしまった。なおとの質問にどのように答えたらよいか、「ぼく」は一緒に考えてほしいと訴える。

(イ) 教材活用の視点

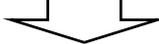
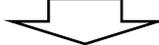
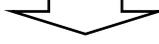
学校生活の中で日常的に起こり得る場面が描かれている。情緒固定学級の児童でも場面を想起しやすく、他者の気持ちや状態を認識しやすいと考えられる。登場人物を自分自身に置き換えて思考させることで、公正、公平に人に接するとはどのようなことを指すのかを学ぶことができる教材である。

4 本時

① 本時のねらい

- ・「公平」という言葉の意味を理解する。
- ・なおとの姿を自分自身と重ねて考えることを通して、誰に対しても分け隔てせず、公平に接しようとする判断力を育てる。

② 学習指導過程

	学習活動 (○主な発問 ◎中心発問 □価値理解のための発問 ・予想される児童の反応)	■指導上の留意点 ◆評価 (評価方法)
導入	<p>1. 言葉の意味を捉え、経験を想起する。</p> <p>○「公平」とは、どういう意味だろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一方に偏らないで公正な様子。 <p style="text-align: center;">→どちらにも偏らず、正しいこと。</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p>「公平」とは、相手を大切に思って、人による違いをつくらずに行動すること。</p>	<p>■ 辞書で「公平」を引き、言葉としての意味を捉える。</p>
展開	<p>2. 教材を提示し、自分自身に置き換えて考える。</p> <p>○ ①、②の場面での気持ちを考えてみよう。→役割演技をして、それぞれの気持ちを体験する。</p> <p><「やった！」と喜ばれる場面></p> <ul style="list-style-type: none"> ・うれしい。 ・ぼくと隣でうれしいのかな。 ・これから楽しみだな。 <p><「ええっ、いやだな。」と喜ばれなかった場面></p> <ul style="list-style-type: none"> ・こっちもいやだな。 ・そんなこと言わなくてもいいのに。 ・いやな気持ちになるなあ。 ・早く席替えしたいな。 <p><「いいよ。」と入れてもらえる場面></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ありがとう。 ・一緒に遊べてうれしいな。 ・やさしいな。 <p><「だめだよ。」と断られた場面></p> <ul style="list-style-type: none"> ・えっ、どうして。 ・わたしのときらいなのかな。 ・悲しいな。 <div style="text-align: center;">  </div> <p>◎ 良い気持ちになったのは、どうしてだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やさしくしてもらったから。 ・相手のことを思って話したから。 <div style="text-align: center;">  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">相手を大切に思って、話したり、行動したりすることが、「公平」に行動できているということ。</p> </div>	<p>■ 登場人物になりきって演技するのではなく、あくまで自分自身として、素直に感じたことを引き出せるようにする。</p> <p>■ 台本を用意しておき、その場の臨場感とともに、実際の場面に近い状態でできるように、環境を整える。</p> <p>■ 他者意識が必ず存在していることに気付かせる。</p> <p>■ その行動自体が良いことであると理解させた上で、「公平」な行動や態度について触れる。</p> <p>◆ 「公平」という言葉の意味を理解し、相手のことを考えることができる。(ワークシート・発言)</p>
終末	<p>3. 自己の経験を振り返る。</p> <p>○ 自分がしたことのある「公平」な行動は、何かありますか。</p>	<p>◆ 「公平」な行動についてこれまでの自分の経験を振り返り、自分なりの考えをもっている。(ワークシート・発言)</p>